

粕谷和夫の観察日記より八王子の地域情報誌から依頼されている「自然探訪」原稿の次号は姉妹都市特集関連です。八王子市と姉妹都市である小田原市の荻窪用水のめだかの学校、小田原城。御幸の浜などを歩きました。この写真は童謡めだかの学校の発祥の地に残る荻窪用水の水車で回っていました。梅の郷小田原は、今どこを歩いても梅が満開です。

# 紅葉台



# 新聞

第122号

2024年

3月23日

発行人：関谷 孝

## 地元発見探鳥会 JR片倉駅～絹の道



2月14日。この日は春を思わせる暖かで気持ちのいい日でした。参加者10名。案内役は地元の渡辺正樹さん。八王子環境市民会議のメンバーでもあります。初めに、八王子の歴史から。皆さんもご存知のよう

に八王子は明治期から生糸の集積地として有名でした。八王子近郷はもとより、長野・山梨・群馬方面から輸出入の生糸が浜街道を通り、横浜港へと運ばれました。今でも八王子は交通の要地であり、ここを起点にたくさんの交通網が敷かれています。八王子八日町から横浜港に向かって伸びる道は浜街道と呼ばれました。のちに地域の研究者が昭和20年代の末に「日本のシルクロード・絹の道」と名付けました。現在のJR横浜線に重なります。今回は、歴史と探鳥会を兼ねてのとても内容のこい探鳥会でした。

片倉駅の南に広がる片倉台の住宅街をまっすぐに登っていきます。駅前にある兵衛川にはカルガモ・コガモがワンドのようなところにいました。そこから遠くに見える大塚山に向かって長い坂道を歩きました。途中、慈眼寺、白山神社があります。片倉台小学校を過ぎると中央公園があります。メジロ、シジュウカラ、ジョウビタキなどが冬枯れの木々の間に見えました。広場では、陽だまりの中のんびりとツグミが餌を啄んでいます。

チューリップのような実が特徴の木はユリノキと教えてもらいました。休憩した後はひたすら大塚山を目指して歩きます。生糸を山の尾根伝いに運ぶ方が段差もなく楽だったからではないかとのことでした。最後に大塚山に向かう151段の階段(数えました)を上ると眼下に八王子の街が広がり絶景でした。ここからは浅間山の噴火や遠く筑波山や12州が見渡せたと云います。トロイアの遺跡を発掘したシュリーマンがこの地に立ち寄った記録があります。また、横浜に来航した外国の人たちもここまで観光に来たそうです。山頂は大塚山公園になっていて、白い雪を冠した富士山も見えました。この見晴らしの良い峠に「道了堂」があります。旅人や村内の安全のために浅草花川戸から道了尊を勧請して創建しましたが、のちに荒廃し撤去され礎石の跡だけが残っていました。標高213m。立木の所に札があるのを粕谷会長が見つけました！(さすがでした)山道は、丸い川石が敷き詰められていました。馬車が通れるようにと村人が運



んだとのこと。苦労が偲ばれました。

絹の道碑から御殿橋までの1.5kmが、史跡、「絹の道」になっています。安政6年(1859年)横浜が開港し、鉄道が発達する明治の中頃まで輸出用の生糸が運ばれた道です。「歴史の道100選」にも選ばれています。途中、広葉樹林の開けたところにはコゲラ・メジロ・シジュウカラ・ヤマガラなどがいました。絹の道資料館で休憩。



ここは、かつて鑓水の生糸商、八木下要右衛門屋敷跡地に資料館が建設されました。石垣御殿とも呼ばれるほど当時の豪商ぶりが偲べれます。そこから、鑓水商人の遺産がある諏訪神社を横目に谷戸の道を歩きました。農家が点在し、里山の雰囲気が残っています。途中、烏骨鶏を飼っているお宅がありました。声を掛けると「寒いので卵は少ないです」と話していました。山間の藪にはアオジ・ジョウビタキが飛び回っていました。ノスリも観察できたのはラッキーでした。アオゲラの鳴き声も聞こえました。ハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイが大栗川沿いで見られました。夏にはホタルが見られると会長が話していました。

最後は、曹洞宗永泉寺(えいせんじ)で鳥合わせ。本堂は、八木下要右衛門屋敷邸を移築したもので、生糸商人の墓や芭蕉堂もありました。ベストは、ノスリ・アオジ・ジョウビタキ雄雌でした。暖かな日差しが心地よく渡辺さんお話しも楽しくためになった探鳥会でした。皆さん大満足で帰宅しました。



粕谷会長の観察日記

小田原の曾我梅林を散策してきました。梅祭りの最中で、梅の花が見頃でした。梅の花で吸蜜するメジロ、ヒヨドリの写真を狙いましたが、タイミングが合わず納得のいく写真は撮れませんでした。この梅林は観光用でなく、梅の実の生産が目的であるため、ほとんどが白梅でよく剪定された枝ぶりでした。短冊「車椅子通りを手伝う梅の径」が目に入りました。



「我の里散策コース」を歩きました。このコースは梅とみかんの里で、曾我物語にまつわる史跡が連なり、路傍には石仏もあって、のどかな散策が楽しめました。昨年秋に歩いた奈良の山辺の道を思い出しました。

某谷戸ですが高齢化した里でせつかくたわわに実ったユズの実が収穫されずに2月になっても残っていました。このユズが柿であれば、冬眠前のクマを呼び寄せてしまいます。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。